

今日から使える!

Classroom English

Lesson 1

褒める・励ます表現

小学校の外国語活動の授業で、どのくらい英語を使っていますか？

授業を進める指示や褒め方などの英語表現をクラスルーム・イングリッシュ(教室英語)と呼びますが、英語が苦手なので、何を言ったらよいかわからない、ALTにすべてお任せ、といった方も少なくないかと思えます。しかし、担任の先生が英語を使うことで、児童も英語を身近に感じ、英語での発話を促すことにつながります。また、児童の前で先生が英語を使う姿を見せることは、「英語を使う日本人」のモデルとなります。少しずつ使える表現を増やして、自信をもってクラスルーム・イングリッシュをできるようにしましょう。

まずは、英語で児童を褒めることから始めませんか。褒められることは大人でもうれしいものです。英語という未知なものにチャレンジしているときこそ、しっかり褒めて、「英語って楽しい」「もっとがんばりたい」と思わせ、児童のやる気を引き出しましょう。

Good job!

よくできました!

児童が単語や表現をリピートしたとき、ゲームやリスニング活動が終わったときなど、いろいろな場面で使える表現です。終わりのあいさつの前に、「Good job, everyone! See you!」のように、まとめの褒め言葉としても使えます。「グッド ジョブ」のように、単語の最後の子音に、oやuなどの母音が付かないように気をつけると、英語らしい音になります。Good job!の代わりに、Great job./ Nice job.など、「よい」という意味の形容詞を置き換えることもできます。

Good listening!

しっかり聞いていましたね!

“Good!”はよく使われる褒め言葉ですが、具体的に何がよいかを褒めることも大切です。音声中心の外国語活動では、聞いている態度だけでも素晴らしいことを伝えるのにこの表現が役立ちます。他の技能や活動(writing, singingなど)に置き換えもできます。また、「Good vocabulary!」(いい単語を知ってるね!)などの英語に関したもののだけでなく、「Good teamwork!」(いいチームワークだね!)「Good idea!」(いいアイデアだね!)と参加態度や姿勢も褒めましょう。

菅井幸子 すがい さちこ

株式会社イーオン 東京本社法人部 学校教育課 教務コーディネーター

岩手県生まれ。大学卒業後、イーオン入社。

2007年より教務課トレーナーとしてイーオンスクールの教師育成に従事。15年に学校教育課の立ち上げに参加し、全国の教育委員会や学校で、教員向けの英語指導法や英語力アップの研修などを行っている。

That's right!

その通り!

児童が問いかけに正しく答えたときや、「先生、これでいいの?」と活動の確認を求めてきたときなどに、かけてあげたい一言です。「右」を表すrightではなく、「正しい」という意味の形容詞です。That's correct.も同意です。英語にはlight(光)という単語もあり、どちらもカタカナで表記するとライトとなります。カタカナのイメージで発音してしまうと、lightに近い音になるので、書くという単語writeと同じイメージで発音ができるとよいでしょう。

Nice try!

惜しいです!／がんばりました!

児童が問いかけに正しく答えられるとは限りません。また、クイズをしているときには、正解ではないけれど惜しい答えの場合もありますね。間違っていたとしても、「No.」はできるだけ言いたくありません。そんなときに、がんばりを励ます表現がこれです。tryという単語の発音は、「トライ」のようにtとrの間に母音を入れないようにしましょう。「距離などが近い」という意味の形容詞で、「Close!」も「答えに近い=惜しい」と励ます言葉です。

You can do it!

あなたならできるよ!

児童ができるかどうか不安で発言しなかったり、恥ずかしい思いをしたくなくて、もじもじしていたりするときに使いたい表現です。「You can do it, Kazu!」などと、名前を呼んでもいいですね。Youとdoを強く読むことで、英語らしいリズムになります。クラスの人々に向けて、「できるよ!やるぞ!」という気持ちで「We can do it!」と言うこともできます。外国語活動に対して、クラスの一人一人が「私もできる!」とチャレンジする気持ちをもてる魔法の言葉です。

★ここがポイント!!

褒めたり励ましたりする表現にバリエーションがあることはもちろん大切ですが、そのときに、児童がその英語自体を理解していなくても、先生から褒められたと伝わるのが何より大切です。慣れない英語で褒めるのは恥ずかしいかもしれませんが、児童がうれしい!もっとがんばりたい!と感じるように、笑顔でアイコンタクトをとりながら、明るい声のトーンで、たっぷり間を取るように心がけましょう。